

島熊山能面祭 入賞51点展示

豊中不動尊

優れた能面、狂言面を制作する面打ち作家の発掘、育成を目指す「第6回島熊山能面祭」が26日、豊中市の豊中不動尊で開かれた。全国から183点の応募があり、観世流能楽師の梅若玄祥さんや大槻文蔵さん、山本博通さんらが「能舞台で使える面」を基準に審査。岩崎拓治さん（兵庫県明石市）の「姥」と田水満さん（松原市）の「皺耐」の2点が大賞に選ばれた。

会場には大賞を含む51点の入賞作品が展示され、訪れた能楽ファンらは熱心に鑑賞し写真、入賞作品を使った「仕舞」も披露され、伝統文化を堪能した。

入賞作品は31日から9月2日まで、大阪（伊丹）空港ターミナルビル3階のエアポートギャラリーで披露される。入場無料。



人間の内面リアルに

大阪空港で新作面展覧会

能面や狂言面を制作する面打ち作家の新作を紹介する展覧会が2日まで、大阪国際（伊丹）空港ターミナルビルの「エアポートギャラリー」で開かれた。写真。

豊中市の豊中不動尊で開かれた「第6回島熊山能面祭」

祭りで大賞に輝いた「姥」「皺耐」など、入賞作品51点を展示。能楽師が「舞台で使いたくなる面」を基準に審査しただけに人間の内面を表現した力作が多いといい、外国人の乗降客からも興味深そうに鑑賞していた。

